

第62回 全出版人大会 開催

2023(令和5)年5月8日(月) 於ホテルニューオータニ



出版クラブ会報
No.618

■ 大会会長の挨拶

四年ぶりの懇親パーティを有意義な機会に



野間省伸

(のま・よしのぶ)

主な記事

- ▽第62回全出版人大会開催
(挨拶) 野間省伸 大会会長、廣野眞一 大会委員長、築和生 文部科学副大臣、吉永元信 国立国会図書館長、小野寺優 大会副会長、小田良次さん、堀内丸恵 大会副会長、加藤義之さん、齋藤健 法務大臣、江草貞治 出版権会理事長
- ▽第62回全出版人大会講演レポート「アジアを生きる」姜尚中氏……九
- ▽〈出版歳時記〉私の牧野富太郎……十

第62回全出版人大会は、2023年5月8日(月)午後3時より、千代田区紀尾井町のホテルニューオータニ・鶴の間で開催され、来賓・出版関係者等約400名が参集した。

第1部式典では、野間省伸・大会会長(講談社社長)による挨拶にはじまり、廣野眞一・大会委員長(集英社社長)の挨拶と大会声朗朗読に続き、築和生・文部科学副大臣と吉永元信・国立国会図書館長からの来賓祝辞をいただいた。

長寿者祝賀と永年勤続者の表彰がおこなわれたのち、「アジアを生きる」と題し、姜尚中氏(政治

学者、東京大学名誉教授、熊本県立劇場館長)による記念講演が催された。

第2部は、江草貞治・出版権会理事長(有斐閣社長、日本出版クラブ理事)の乾杯の発声により、4年ぶりとなる懇親パーティが幕を開けた。会には、「街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟」の塩谷立会長(衆議院議員)と齋藤健幹事長(法務大臣)、「学校図書館議員連盟」の笠浩史事務局長(衆議院議員)も駆けつけた。

久々の対面による立食形式のパーティに会場は終始和やかな雰囲気包まれた。

本日、皆様には、お忙し中、全出版人大会にご出席いただき、誠にありがとうございます。ご来賓として、築和生・文部科学副大臣、吉永元信・国立国会図書館長にご出席を賜り、四年ぶりに従来通りの形式で全出版人大会を開催する運びとなりました。ようやくこのような形で開催することができ、たいへんうれしく思っております。

長寿祝賀の皆様、また永年勤続表彰の皆様、本日は誠にありがとうございます。皆様の長年にわたる出版界へのご貢献に大会を代表して厚く御礼申し上げます。

この後、集英社代表取締役社長の廣野眞一さんから、大会委員長のご挨拶と大会声明を頂戴します。

大きな変化の局面にある出版界において、私たちの進むべき未来を示唆する大変素晴らしい大会声明です。

また、その後の記念講演では、東京大学名誉教授の政治学者、姜尚中さんにお話しいただきました。

今年は第二部として、懇親パーティも開くことにいたしました。お時間の許す限りご懇談いただき、出版界のこれからを考える機会となれば幸いです。

簡単ではございますが、大会会長の挨拶とさせていただきます。(講談社社長)

大会委員長の挨拶

アジアの一員として

常にグローバルな視点を



廣野眞一

(ひろの・しんいち)

第62回全出版人大会の大会委員長を仰せつかりました、集英社の廣野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まずは、日本出版クラブ創立70周年、おめでとうございます。そして、ご長寿者、永年勤続者の表彰を受けられる皆様、誠にありがとうございます。長年におめでとうございます。わたり、出版業界の発展のために尽くしてこられた、これまでの貢献やご努力に深く敬意を表し、心から感謝申し上げます。

また、大変長引きましたが、本日から感染症法上の位置づけを5類に移行することが政府より発表され、やっと状況は変わってまいりました。今日の大会は4年ぶりに懇親パーティも開催されます。この日のために、野間会長をはじめ、大会役員の皆様、事務局の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。さて、最初に委員長のミッシェンの一つである大会記念品の

風呂敷のデザインの話からいたします。この風呂敷の絵柄は、集英社創業95周年企画として刊行中の『アジア人物史』全12巻のカバーのために、『ジョジョの奇妙な冒険』で世界中に熱狂的なファンをもつ、漫画家の荒木飛呂彦さんが描き下ろしてくださったものです。そして、その全集の装幀を担当された水戸部功さんがデザインしてくださりました。

詳しくは箱の中の由緒書をお読みいただくとして、この『アジア人物史』全集の刊行意図について少しお話しさせていただきます。まず、この全集がアジア各国で翻訳されてほしい、という願いがありました。そのためには日本はもちろん、どの国でも受け入れられやすいスタイルにしたい。そこで今回試みたのは、アジア各地域の、有名無名の魅力的な人物の評伝をつなぎ合わせ、アジア全体にわたる新しい通史を紡ぎだせな

大会声明

今から100年前の1920年代、つまり大正の終わりから昭和の初めは、出版界が急激に拡大した時代でした。

1923年の関東大震災を乗り越えるかのように、雑誌と書籍の流通が結びついて日本全国にはりめぐらされた販路を通してベストセラーが続々と生まれ、週刊誌も誕生し、円本の文学全集による教養熱が高まり、雑誌『キング』は100万部を突破しました。ラジオやレコードとのタイアップが広まり、性科学など女性のための教養書も刊行されます。書店が増え、再販制度の原型が現れ、印刷技術も進歩し、出版点数は飛躍的に増えました。まさにベンチャー精神に満ちあふれ、現在に至る出版ビジネスの基礎が確立した時代と言えます。

ちなみに1920年代のヨーロッパでは、初めて「ロボット」という言葉が登場する戯曲「R.U.R.」が書かれ、映画『メトロポリス』も上映されました。ともに人工知能と人間社会の軋轢を描くもので、現在のAI論争の先駆けと言えます。

その後、戦時下と占領下における出版統制と言論弾圧という試練のときがありました。1950年代に再び出版界全体の立て直しが始まり、1953年にはこの日本出版クラブが設立され、今年70周年を迎えました。

このように、私たちの先人たちは、困難な時代においても実にたくましく働き、知恵と知識を、多様な価値観を、心を豊かにする物語を、日常を彩る娯楽を、孤独な魂には居場所を、提供してきました。そして、目の前の厳しい現実をも乗り越え、精神の自由をこの社会に広めてきました。

今、出版界は大きな変化の局面にあります。デジタルプラットフォームが情報の流通を大きく変え、コロナ禍はその変化を加速しました。さらにAIの進歩はクリエイティブの本質とは何かを私たちに突きつけています。近年、出版業界の未来に悲観的な声が聞かれるのも事実です。

このような状況で思い出すのが、生涯、自由な精神を追い求めた堀田善衛さんです。移動し、行動し、世界中の人々と交流し、真にグローバルな視座で考え続けた方でした。そして、どんな状況においても悲観せず、ひたすら観察した方でした。そのための補助線として、鴨長明やゴヤ、モンテニョラ、かつて戦乱の時代を観察した人々の思考と感性を丁寧にたどりました。

そんな堀田さんは「現在を過去と未来を内包する」、そして「歴史は繰り返さず、人これを繰り返す」と語っています。

我田引水ではありませんが、かつて出版文化を築いた先人たちの精神を想像すると、そこで私たちが何よりも大切に受け継ぐべきは、冒険心にあふれ、精神の自由を追い求めた、そのたくましい魂ではないでしょうか。

堀田さんとはかく考え続けた方でしたが、私たちが今の出版界あるいは社会の課題についてどんなに考えても、答えは得られないかもしれません。しかし、何がわからないかがわかれば、それは誰かと共有できます。個人を超え、組織を超え、業界を超えてつながることもできるはずですよ。

そして現在の出版界には、先人たちが残してくれた大きな財産があります。それは社会からの信頼です。今も多くの人々は、書物というメディアに特別なリスペクトを抱いています。それは社会からの信頼が地域のコミュニティとして再評価される動きも、各地で起きています。

100年にわたる先人たちの仕事の上に私たちが今立っていることに感謝しつつ、この先100年の道筋をつけるのが私たちの仕事であることをあらためて確認し、第62回全出版人大会の声明といたします。

2023年5月8日

第62回 全出版人大会

いか、ということでした。アジア各国の発展にともない、明治以降根強く存在した、日本はアジアの盟主であるという価値観からも解放され始めた今だからこそ、隣国の人々と共有し得る歴史書にしたい。加えて、この世界でもっとも面白いのは、や

はりさまざまな人生の物語である、そんな思いも込められています。そして本日の記念講演は、この『アジア人物史』の総監修を務められている姜尚中さんにお願いたしました。

この全集の刊行に際し、私が思い出したのが、堀田善衛さん

のことでした。堀田さんは皆様ご承知のとおり『上海にて』『インドで考えたこと』などアジアをめぐる紀行文も書かれ、アジア・アフリカ作家会議で事務局長を務められ、ベトナム戦争の脱走兵を匿うなど、西洋中心でなく真にグローバルなまなざし

で日本を考え、歴史のなかに現在をとらえ、社会のなかに個人の人生を思索し続けた方でした。私は堀田さんの言葉をすべて理解できているとは到底言えません。堀田さんのことを思いながら用意したのが、これから読み上げる声明文で、今日は

皆様に風呂敷をお贈りするにあたり、こちらの声明では大風呂敷を広げさせていただきます。ただ、大風呂敷であっても大法螺にはならないよう、自戒の念も込めて読み上げます。よろしくお願いたします。

(集英社社長)

■文部科学副大臣の祝辞

質の高い出版物を通じ
わが国の文化芸術の振興を



籙 和生
(やな・かずお)

本日、第62回全出版人大会が盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。また、本日、長年にわたって出版界に尽くされ、長寿者および永年勤続者の表彰を受けられる皆さまに、心からお祝いを申し上げます。

出版活動を含むわが国の文字、活字文化は、人類が長い歴史の中で培ってきた知識を長く後世に伝え、さらに人々の豊かな人間性を涵養する上でも欠くことのできないものです。調査によれば、わが国の新刊の書籍

の出版点数は、年間約7万点で、1日当たり換算すると、約200点もの新刊が出版され続けています。これは、わが国における出版物を通じた創造活動が盛んであること、また、国民の置かれた環境が文化的にも豊かであることを表すものであり、大変喜ばしいこととございませ

う。

文化庁においても、わが国の多様で豊かな活字文化の海外発信のため、従来から実施していた海外での翻訳家の発掘、育成に加え、出版社等による作品の海外展開に対する支援を今年度から開始しております。

そして、去る3月27日には、文化庁が京都の新庁舎に移転し業務を開始しました。今般の移転を機に全国各地からわが国の文化、芸術を世界に発信し、そ

う。

皆さま方におかれましては、今後とも質の高い出版物の提供を通じ、わが国の文化芸術の振興のために引き続きご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本日ご臨席の皆さまのご健勝とご活躍、また、わが国の出版界のさらなる発展を心よりお祈りいたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございませう。

■国立国会図書館長の祝辞

正確で信頼できる出版物は
社会の羅針盤



吉永元信
(よしなが・もとひこ)

第62回全出版人大会が、多くの関係の皆さまのご列席の下にこのように盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。また、長寿祝賀、そして永年勤続表彰をお受けになる皆さまの長年にわたる出版界へのご尽力に深く敬意を表し、謹んでお祝いを申し上げます。

さて、戦後、1948年の納

本制度の創設以来、75年の長きにわたって出版物を国立国会図書館に納めていただくという、出版界の皆さまのたゆまぬ努力とご協力に支えられて、国立国会図書館の蔵書は構築されてきました。大会声明では「100年にわたる先人たちの仕事の上に私たちが今立っている」と述べられました。納本制度もま

た、出版文化を築いた出版界の先人たちの仕事の上に発展してきたものです。出版界の皆さまの長年にわたるご協力に心より感謝申し上げます。

そして、今年の1月には、有償等の電子書籍、電子雑誌も国立国会図書館法に基づき広く収集することになりました。これにより、紙、電子の違いを問わ

ず出版物を保存し日本国民の知的活動の記録として後世に継承できるようにになりました。2000年に有形の媒体に記録された電子出版物を納本制度の対象に加えて以来、四半世紀近くにわたって電子出版物の収集制度の拡充に取り組んできました。これが実現した本年は、国立国会図書館にとって重要な節目の年になりました。

今後、この収集制度が真に効果を発揮するためには、出版界との緊密な連携がこれまで以上に重要となります。改めて、出版界の皆さまのご理解とご協力

を賜りたく、お願い申し上げます。

大会声明の中で、大きな変化の局面にある出版界において、「この先100年の道筋をつけるのが私たちの仕事であること」をあらためて確認する」と力強く宣言されました。国立国会図書館も同様に出版や情報技術の変化に対応して変わっていかねければなりません。「国立国会図書館のデジタルシフト」をビジョンに掲げ、出版物などの情報資源とわが国の知的活動を的確につなげていくことを目指しております。

このビジョンの下、納本された出版物を永く保存するためにデジタル化を進めています。現在は、1995年までに刊行された図書等のデジタル化に取り組んでいます。また、著作権法の改正により昨年5月から、デジタル化した資料のうち絶版等の理由で入手が困難なものにつきましては、利用者の自宅からアクセスできるようにしました。さらに、デジタル化資料の全文検索も可能になりました。

これにより、出版物の発見可能性が飛躍的に高まりますので、過去の出版物に新たな光が当て

られ、次なる知的創造活動につながっていくことが期待されます。これらの取り組みに当たって、出版界の皆さまのご理解を賜りましたことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

大会声明で言及されましたように、現在の出版界には社会からの信頼という大きな財産があります。書物というメディアへの特別なリスpekトは、図書館業務に従事する私たちもまた同じ思いを共有するものであります。不確実で答えのない時代にあつて、出版物が提供してくれ

る確かで信頼できる知識や情報は、社会の羅針盤として今後一層その価値を高めていくものと確信しています。当館はこれからもわが国の出版物の収集、保存、提供という使命を果たしていくことを通じて、出版界の皆さまと共に信頼できる知識と情報に支えられた社会の実現に寄与してまいりたいと思えます。

結びに、本日ご臨席の皆さまのご健勝と出版界の一層の発展を祈念いたしまして、私のごあいさつとさせていただきます。本日は、誠におめでとうございます。

■長寿者祝賀の辞

良質な出版物への

信頼と期待を背負って



小野寺 優

(おのでら・まこと)

第62回全出版人大会にあたり、長寿のお祝いをお受けになられた19名の皆さま、誠におめでとございます。皆さまの長年にわたる出版界への多大なご貢献に対し、心より敬意を表しますとともに厚く御礼を申し上げます。

今年、70歳を迎えられる皆さまは、昭和、平成と、激変する

出版界を支えてこられました。

バブル経済の繁栄と崩壊、インターネットの普及、リーマンショック、大きな天災、そしてコロナ禍。その都度、出版界も大きな影響を受けました。そして出版物自体も紙媒体に加え、デジタル媒体によるものも増え、多様化が進んでいます。

しかし、どのように時代が変

わろうとも、揺らぐことがないのは良質な出版物への信頼と期待です。

新型コロナウイルス感染症は終息の気配を見せていますが、いつまた新たな感染症が広がるかわかりません。ウクライナ戦争は未だ終わりが見えず、ミャンマーやスーダンをはじめ多くの国では内戦が続ぎ、人々が苦しんでいます。人類の明日が本

当に見えにくい時代です。しかし出版物に目を転じれば、そこには過去の人類と感染症との闘いの記録があり、多くの戦争についての記録と反省があり、今を生きる人々たちによる深い思索が記されています。

今、私たちが対峙している問題解決の糸口は出版物の中にこそあり、それは、ここにいらっ

しやる長寿者の皆さまが、額に汗しながら社会に届け、残してきた人類の財産です。私たちは皆さまの思いを受け継ぎ、これをまた次世代に繋げてゆかねばなりません。

出版界は今も多くの課題に直面しています。これらの課題に取り組む時、皆さまのご経験と、それによって得られた深い知見ほど、よすがとなるものはありません。どうか今後とも私たち後輩にさまざまなご助言を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりますが、皆さまのますますのご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。本日は誠におめでとうございます。

(大会副会長、河出書房新社社長)



長寿者代表の謝辞 教科書の歩みとともに



小田良次
(おだ・りょうじ)

第62回全出版人大会に際しまして、長寿者祝賀を受けました19名を代表いたしまして、大変僣越ではございますが、一言、ごあいさつ申し上げます。

お礼の言葉の前に、まず本日、この歴史ある出版クラブの第62回全出版人大会の開催、誠に御めどうございます。開催に当たりましては、野間会長さま、廣野大会委員長さま、小野寺大会副会長さま、堀内大会副会長さま、他、大会役員の皆さま、職員の皆さまには大変なご尽力を頂き、加えて、築文部科学副大臣さま、吉永国会図書館長さまにもご臨席いただきまして、かくも盛大にお祝いをしていただきありがとうございます。長寿者を代表いたしまして、心からお礼申し上げます。

せっかくのご指名でございますので、長寿者の代表として一言ごあいさつ申し上げたいと思います。とは言いますが、このような経験は、当然のことながら全く初めてでございますの

で、どうしたものかと困っておりましたところ、「入社より歩んできた足跡の一端を紹介していただければ」という野間会長さまからのご指導を受けましたので、そのようにさせていたいただければと存じます。

私は、1977年、昭和52年に今もって勤めております実教出版に入社いたしました。弊社は高等学校用の教科書、教材が全売上の約9割を占めております出版社でございます。ですから、大変恐縮ですが、今日は教科書に偏ったお話になってしまいかと思います。私が入社してから本日まで46年の間に、教科書は大きく進化してきております。言ってみれば、教科書の進化と共に歩んだ46年の私の人生と言えるかと思えます。

今でこそ、教科書を手にされますと、当たり前のように入社印刷で図版や写真、イラストがたくさん入っていて、教科書であつてもなんか楽しそうなの、また、易しくて解かりやすそうに見えていただけると存じま

す。私たちがそのようなよう頑張ってきたつもりでございます。

46年前、私が入社した時と比べると、さらに4年以上さかのぼりまして、高校生であった時の教科書を思い出しますと、まず、判型は小さなA5判、印刷はモノクロの1色刷り、そして学術的な図解や資料、グラフ、あとは数少ないモノクロ写真は載っています。まずイラストなどというものはなかったかと思えます。小学校の教科書は、その時代でも挿絵等はちゃんと入っていましたけれども、高校の教科書となるとこんな感じでした。

あえて学術的な図解は載っていたと申し上げましたのは、要するに、つまらなくて難しくて全然分らないと。あまり読む気にもなれず、学年が進むにつれて勉強嫌いが加速していき、ついには受験勉強をほとんどしない高校生活を送ることになったのも当時の教科書のせいだとも思っております。

そういう人間がこの会社に入社してまいりまして、私のような教科書のせいで勉強嫌いになつたという子どもたちができないようにと、児童・生徒が思わず自ら手に取ってくれるような教科書をつくっていかうというところで、大げさに言いますと、ここから私の教科書改造計画を目指した46年の教科書会社人生が始まりました。

その間の教科書の進化と申し上げましたが、質的な向上、内容の変化など多岐にわたっておりますので、それぞれこれを話しますと終わりませんので、本日は教科書の体裁、見た目の進化だけのお話をさせていただきます。

当時、そもそも判型も小さくモノクロ1色刷りだったのは、教科書の編修、制作に当たっては、当時「体裁のめやす」という規定が設けられておりました。判型や総ページ数、本文紙の色度数、カラー印刷できる口絵等のページ数、使用する用紙等が一定程度制限されていたり、規定されたりしていました。それは当時としては決して悪いことではなく、教科書は教科書らしく決して華美にならないようにとか、また、教科書発行者の競争が過当にならないようにといった、さまざまな配慮があつたことでした。当時、教科書は独占禁止法上の特殊指定商品だったということにも起因しております。

それがその後、時代の趨勢、学校現場や発行会社からの要望もありまして、段階的に規制が緩和されてきました。口絵などは元からカラー印刷はできたのですが、ページ数に制限がありました。その後、本文紙のカラー化は段階的に緩和、それ以前から判型も緩和されていきました。そうすると、発行会社側の



出版平和堂

「第55回 出版功労者顕彰会」を
10月25日(水)出版平和堂にて開催します

問い合わせ：一般財団法人日本出版クラブ

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル5F

TEL 03(5577)1771

https://www.shuppan-heiwado.jp/

動きは大変早かったです。まずは、判型のB5判化、そして本文のカラー化は、まるで各社申し合わせたかのように一気に、一斉に進みました。

こうやって、昭和の末期から平成の始まるころには大判の教科書がもう出回り始めました。そして、平成になって最初の学習指導要領改定、小学校は平成4年、高校は平成6年実施ですが、どの教科書会社も従来型のA5判に加えてB5判の教科書も発行、そして刷り色はほぼ全てカラー印刷となりました。教科書の大判化とカラー化は一気に進みました。

そこで、カラー印刷ができる、判型・紙面も、当時の雑誌と同様に大きく使えるとなると、問われるのは表現力となります。そこから弊社でも、編修部のスローガンに挙げたのは「ビジュアル化」ということでした。各社とも、図解、図説、イラスト等を工夫して、ふんだんに取り入れて現在の親しみやすい教科書となってきたわけです。

判型の大判化は、その後B5判にとどまらず、現在ではAB判、A4判、変形B5判と、さまざまになってきています。そして、この表現方法もかなり頂点まで極めてきています。いよいよ紙の上での表現は限界近くまで来ているのかもしれない。教科書は大判化、カラー化、ビジュアル化と進化し、紙の上で

の表現が限界に近くなってきた時に、次なる表現の手段として出てきたのは、結果的にデジタル化というところになりました。ただ、ここで言うデジタル化は、いわゆるデジタル教科書とは別のことを言っています。

令和2年の小学校から現行教育課程がスタートしています。高校も令和4年から実施されていますので、現在出回っている教科書は、ぜひ目に付く機会がございましたら手に取っていただきたいのですが、ほとんど全ての教科書にQRコードが付いています。その教科書のQRコードに、お手持ちのスマホを当てていただくと、突然動画とかいろいろな資料が出てまいります。これは、いわゆるデジタル教科書とは別で、紙の教科書での表現の最たるものとして、極め付けとしての産物です。入社して46年の間に教科書はここまで進化してきました。みんな進化させてきたところで

ここで今問題になっているのは、その製造コストです。この費用、どこからも誰からもお金は出てきません。発行者が自ら紙の教科書の定価の中から算出、捻出するしかありません。そうすると、問題になるのは、実は教科書の定価の安さです。安いのには165円。高校でも500円台からございますので、

小学校で言えば学習ノートよりも安いですし、高校の場合でも雑誌の週刊誌並み、月刊誌より安い。この安い定価の中から、QRコードの背景にあるデジタルデータの制作費を捻出しなければなりません。全くそれは、もう相当数が出ない赤字という実情になっていきます。

昨年来、物価の高騰、教科書の印刷製本代も高騰してしまっていて、中でも紙代が一気に30%以上も上がっています。各企業とも、この諸物価高騰の中、決め台詞として「原材料費の高騰が企業努力だけでは吸収し切れないため、定価を上げさせていただきます」と言っておりますが、教科書の定価は勝手に上げられません。全て国が決める仕組みになっております。

さらに、物価高騰に加えて、今大きな問題は少子化です。昨年の出生者数は、ついに80万人を割りました。需要は減る一方です。このどうにもならない構造不況下の業界でもありません。

ただ、文部科学省は私たちの立場、実情はよく理解していただいております。毎年財務省に対して予算折衝をしていただいております。皆さんが、もし教科書について何かコメントを求められるような機会がありましたら「教科書ってちょっと安いよね」とか、さらにもう一言言う機会があり

ましたら「防衛費より教育費だよね」とか言っていたらとありがたいかなと思っております。

本日は長寿者としてお祝いをしていただきましたが、このようにに私自身、この会社で、また、この業界でまだまだやり残したことがあり過ぎまして、なかなか足抜けできない状況です。ということで、本日お祝いしていただいたことを一つの糧として、さらに励みとして、残りの人生を歩んでいきたいと思っております。

自分の業界のことばかり申し上げましたが、出版界全体としても大きな変革の波が押し寄せていると思います。いわゆるDX化の進展は出版界にも大きく影響していると思います。そういった状況下、最後にも一言、本日お集まりの皆さんへ感謝の思いを申し上げます。この出版クラブが中心となって出版文化を常に発展させていってほしいこと、また、出版業界を構成する皆さま方が、常に折々の社会状況を反映した平和や環境など、人類共通の課題を解決していく出版人であらうことを、ことに敬意と感謝を申し上げてお礼の言葉とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。
（実教出版社長、日本出版クラブ 評議員）

出版記念会

喜びを分かち合える出版人のホールでお祝いの会を。

★会報「出版クラブだより」にてご紹介して、祝賀申しあげます。



受賞祝賀会

受賞の荣誉に輝く喜びを祝賀する集いに、出版クラブホールを。

★ご案内状の作成、印刷、宛名書き、贈呈記念品、花束など、お手伝いのむきもお申しつけ下さい

●ご予約・お問い合わせ

出版クラブホール

Tel 03(5577)1511 千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル

■永年勤続者表彰の辞

出版界の発展のために
リーダーシップの発揮を



堀内丸恵
(ほりうち・まるえ)

本日、第62回全出版人大会において、324名の皆さまが永年勤続者の表彰を受けられました。心からお祝いを申し上げます。

す。本日表彰された皆さんは、出版界の各分野で活躍され、各社から推薦を受けた勤続15年以上の方々と伺っております。

この15年は、リーマンショック、東日本大震災、新型コロナウイルスの感染拡大、ウクライナ情勢など、世界を大きく揺るがす出来事が相次ぎました。

そして、出版界においても、まさに激動の時代でもありました。スマートフォンやSNSが爆発的に広まるなどのデジタル化や、少子化が進み、また書店

の減少や海賊版問題、原材料費の高騰、物流問題など、今も課題は山積しています。

しかし、働き始めてからずっとこうした困難な状況の中、それぞれの努力と工夫をもって仕事に邁進してこられた皆さんのご経験は、今後の出版界において非常に貴重な意味を持つといえます。

人々の生活や心と密接につながっている出版という仕事は、先行きが不透明な今だからこそ、ますます大切な存在になる

■永年勤続者代表の謝辞

創業の思い—人の心を
数千年にわたり伝えていく



加藤 義之
(かとう・よしゆき)

本日は永年勤続の表彰を頂き、誠にありがとうございます。大変僣越ではございますが、表彰者の皆さまを代表してお礼の言葉を申し上げます。

私は、他業種からの転職という形で、2005年の秋に建帛社に入社いたしました。建帛社は、念のため申し上げますと、家政学を中心とした専門書を出版しております。現在では、と

りわけ、栄養、保育、教育や医学関連分野の出版が多く、こうした分野の専門職養成課程で学ぶ学生の皆さまに教科書としてご愛読いただいております。

さて、入社当初は営業部に配属されました。弊社は本社社屋に倉庫がありますので、倉庫業務を中心に書籍の出荷、配達その他、製本が完了して納品されてくる書籍の荷卸し、倉庫への積

み込みを日々行っていました。もちろん、これ以外にも外に出ていく営業活動もあったのですが、この時期は本の重さ、比喩ではなく、10冊20冊、まとめて梱包された書籍の束の物理的な重さというものを実感する日々でした。

営業部には4年弱おりました。その後製作部に異動になりました。建帛社における製作部は、用紙、資材の手配、印刷、製本の工程管理などを中心とした部署でございます。建帛社の出版物は、大学などで教科書として採用されているものも多いため、新学期の出荷を控えた年始ごろまでにかなり多くの点数の重版が集中いたします。それに加え、内容と装丁を見直し改訂版として発行するものや、純粋な新刊もやはり年度末までに集中する傾向がございます。

毎年同様の仕様で、印刷、製本においても何の事故もなく順調に進行すれば何よりなのですが、前回使用した用紙やクロスが品切れ、廃番になり再検討が必要になることや、また、印刷が仕上がってみると、装丁デザインの意味どおりの特色が出ていないなど、進行が行きつ戻りつの場合というのは必ず、毎年少なからずございます。そして、予定していた刊行日というのは決まっておりますので、そこに遅れないために、いつも立场上、用紙の代理店、印刷会社、製本会社の方々に無理なお願いをせざるを得ない状況がございます。いつも関係の皆さまにはご尽力いただき、また、同僚たちも力を合わせながら、なんとか新学期に読者である学生の皆さんに本を届けることができている、これがもうこの10年、製作

部に異動してからやっていることとでございます。

また、建帛社では、大学訪問や新刊企画というのは、部署に限らず誰がやってもいいということになっておりますので、私も年間幾つかの新刊を担当しております。企画段階から新刊作りを担当するようになって最も印象に残っておりますのは、やはり著者の先生方が本当に真摯に熱意を持っていらっしゃるということとです。管理栄養士養成課程に向けた専門書を例にしますと、学問的な新たな知見とともに内容を変更した新刊が必要になるということは、当然のこととして社会の環境の変化などにより管理栄養士に期待される職務の範囲や必要なスキルも変化しております。教育現場でそういったことに先生方が対応してきたことを一定の成果として

はです。そこでは、皆さんの持つ今までの経験や知識や感性が、間違いなく大きな役割を果たすと思います。

加えて、働き始めて15年というのは、まさに社の内外でリーダーシップを発揮すべき立場でもあると思います。これからも出版界の発展のために、ますます活躍されることを心からお祈りして、お祝いの言葉に代えさせていただきます。本日は、誠にありがとうございます。

(大会副会長、集英社会長)

書籍にまとめることを通じて、管理栄養士になることを目指す学生さんたちを有為な人材として育てたいという、先生方の非常に強い情熱に触れる場面があります。こうしたことに率直に感銘を受けております。

企画が生まれてから本が完成するまでには多くの段階があり、完成した書籍が執筆者のそのうした思いを十分に反映し、効果的に編集して構成できているのか、そして実際、それがよく売れるのかということについては、まだなかなか難しい部分もあるのですが、医療現場で働く人材の育成という、意義のある事業に出版を通じて携わることができているのは、本当にうれしいことだと思っております。



齋藤 健
(おんこう・けん)

■第二部 懇親パーティ―法務大臣祝辞 書店の減少は日本文化の危機

全出版人大会の開催、誠にめでとうございます。ご紹介いただきました法務大臣の齋藤健です。今日は法務大臣としてよりも、一議員としてお話をさせていただきます。今日は塩谷立先生がお越しで

さらに、製作部での業務は、他にも、図書目録の作成や、目録とデータベースが共通する自社ウェブサイトの管理、また、広告宣伝など多岐にわたるのですが、近年は、ここまでのお話でもありましたように、書籍の電子化や、大学の教科書という面でも、DX化というところで、動画などのリッチコンテンツを書籍と関連させたいというアイデアが、著者サイドからも編集サイドからも数多く出てまいります。また、それ以前に、コロナ禍において、教育現場において電子教科書の導入、遠隔授業など急速に変化する部分がありました。こうした、物としての書籍作

ですが、塩谷先生は、「街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟」の会長をなさってくださいっております。これは、書店がどんどん減少していることに危機感を感じまして立ち上げた議員連盟であります。

りからはやや離れた、情報面の技術についても絶えず勉強が必要ですし、業務は複雑化しているのですが、とはいえ、さまざまな可能性が目の前で開けているという意味では、とてもやりがいのある仕事だと感じております。

製作部の仕事として、物としての書籍を作っていく中では、書籍というのは工業製品として欠陥がなく、手に取って読みやすく、さらには、装丁のデザインが美的な関心の対象になり、本棚に並べると美しいことも求められます。これも出版文化の一つの切り口かと思えます。

一方、電子化した書籍も、例えば、EPUBというファイル形式であれば、文字の拡大や読

15年間で40%も書店が減り、さらに、書店のない市町村が全国の4分の1になるといふような、これは日本の文化の危機であるという問題意識で議員連盟を立ち上げたわけがあります。当初はあまり見向きしてくれなかった文部科学省も、最近では「やはり書店がなくなるのは良くない」ということで、だいぶご理解を頂けるようになってきました。これも塩谷会長が文科大臣もなされていたということが大きいのではないかなと思っております。いずれにしても、書店さんと図書館とウェブ、こ

み上げに対応し、アクセシビリティを高めるといふ利点があり、これも出版文化の新たな扉を開くものではないかと思えます。今年に入り、対話型AIが急速に活用されるようになり、また出版の世界においても何か変化が起きるかもしれませんが、いずれにせよ、間違いのない確かな内容とともに著者の先生方の熱意を伝える良書、求める読者に届く形式で製作していくというのが、今後も基本的な構えとなると思います。

最後に、建帛社の「帛」の字は、布帛の「帛」で、絹織物の意味でございます。古代中国の帛書のように、人の心を数千年にわたりに伝えていく、そういった思いが込められている社名です。

の3つが共存をする世界をつくっていくということが極めて大事だと思っております。書店だけがどんどん減少していくということは、日本の文化の危機だと感じておりますので、塩谷先生を中心に書店問題をしっかり取り組んでいきたいと思っております。今日、全出版人の方々が集まりだとして聞いておりますので、ぜひ、この問題意識でわれわれをサポートしていただけたらありがたいなということでございます。

ほんとうはあと2時間ぐらいお話ししたいのですが、それも許されないとしますので、こ

あると聞いております。社内においては、会長、社長をはじめ、諸先輩方にご指導いただき、会社の仲間たちや関係会社の皆さまに助けられ、この15年勤めてまいりました。また、著者の先生方や読者の学生さんもあつての出版活動であると思っております。また、さらに本日、このような場で、非常に長い歴史のある出版文化の流れの中に身を置いているという認識を新たに、身が引き締まる思いでございます。

本日、永年勤続の表彰を受けられました皆さまのますますのご活躍、出版界の一層の発展をお祈りしまして、お礼の言葉といたします。ありがとうございます。(建帛社製作部)



れで失礼させていただきます。本日はほんとうにおめでとうございます。

(法務大臣、「街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟」幹事長)

■第二部 懇親パーティー 乾杯
出版する喜びを
読者と共有していきたい



江草貞治
(えくさ・さだはる)

本日表彰されました永年勤続の皆さま、それからお祝いを受けたら、6年前に出版祥会の皆様、本当におめでとうございます。また、心より感謝申し上げます。挨拶に当たりまして、過去の乾杯の挨拶の資料を拝見しておりましたら、6年前に出版祥会の前理事長が登壇されていますけれども、その中で人工知能について言及をされておりました。当時の学生に「出版編集の仕事は人工知能に取って変わられますか」と、そんな質問を受け、面食らった」というようなご発言なのですが、6年後、今私たちが、ChatGPTに代表される生成型AIに、まさに面食らうような日々が続いております。聞くところによりますと、『週刊東洋経済』は、AIの特集号が3刷りまでいったというふう聞いております。いかに世の中がざわついているかがわかります。

私は、AIがホワイトカラーと呼ばれる領域の業務をがらりと変えるのではないかと思っています。実際にAIを試してみると大変驚かされるのですが、SF作家アサー・C・クラークの有名な言葉に「十分発達した科学技術は魔法と見分けがつかない」というものがあります。正に魔法のように、質問に対して滑らかな日本語で応えます。しかし本当の意味でのクリエイティブなことをAIはしていないはずで、AIが性能を十分に発揮するためには、実は学習データとして私たちの出版物、著作物をデータとして取り込んでいかなければ正確さに欠けたり、でたらめな記述が入り込みます。

では、私たちは出版人として何をやっているのかというふうな考えますと、ゼロからイチを生む瞬間に立ち会い、そこに工夫を凝らしているんじゃないか

と思っております。AIの進化に踊らされたり不安に思ったりすることなく、私たちはAIを使いこなして、新しい出版、未来へ続く出版をこれからも心掛けていきたいと考えております。AIは学習のデータをたくさん必要としておりますけれども、本を読む楽しみをAIは知りません。たくさんさんのデータを高速整理することはできても、ゼロをイチにすることはできません。私たちが人間ができることに胸を張ってこれからもやり続けていきたい。出版をする喜びを、われわれも楽しみながらやりたいし、その価値を読者の方とも共有していきたいというふうに思っております。

これから4年ぶりの「大雑談会」が始まります。丸3年間、対面を封じられた私たちは、雑談がいかに大事かというのを身をもって感じていたと思います。どうぞこれから小一時間、対談、対面を大いに楽しんでいただいで、出版の未来につながる大いなる雑談をしていただければと思います。甚だ簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。

それでは今日ご来会の皆さまのさらなるご健勝と出版界の発展を祈念して乾杯したいと存じます。
ご唱和ください。乾杯。
(出版祥会理事長、有斐閣社長、日本出版クラブ理事)

第62回全出版人大会
講演レポート
「アジアを生きる」
姜尚中氏



朝鮮戦争勃発の年に生まれ、今日に至るまで「内なるアジア」と格闘し続けてきた姜尚中氏。今回監修した『アジア人物史』(集英社)の刊行にあたり、関係者への感謝とともに、刊行に至るまでの経緯について述べた。

「夏目漱石は、20世紀のはじめにロンドンに留学をし、ヴィクトリア女王の葬儀を見て、大英帝国は確実に斜陽へと向かっており、逆に日本はライジングサンで、これから伸びていく国というコントラストを感じていました。かつての日本も大英帝国のように、アジアに帝国を築こうとしましたが、現在の日本と中国・韓国の関係は、120年前のイギリス・日本と同じで、家電・EV自動車・半導体の分野です。すでに日本は遅れをとっています。しかしながら他産業と違い、出版こそ日本の最も競争力のある産業です。アニメやコミック、日本で出版されたものが韓国や中国でたくさん翻訳され、日本の文化として

アジアや世界に広がっています。出版の分野において日本だからこそのものがあるものがあるのではないかと。それを多くの専門家と一緒に、膨大な専門知識とともに人を通じて語ってみようと考えました。

また、世界各地で戦争や紛争が起こる度、地政学や歴史観が大きくクローズアップされるようになりました。しかし、既存の歴史書はいずれもどこか人間の営みを高い所から俯瞰しており、本当にそれでのいのだろうかというのが心のどこかにありました。

それぞれの国にはナショナルヒストリーがあり、日本で刊行する以上、日本のナショナルヒストリーに基づくフレームワークが必要です。その枠を越えるために、近代日本が蓄積した専門知を人物史という方法に生かしました。この広大なユーラシア大陸に、どういった人々が光彩陸離としたこの絵巻物を展開したのか。これがある時代に生きた人間を通じて、神話の時代から今日まで語ってみようではないかと考えたのです。奇しくも全出版人大会の前日の5月7日には、5年ぶりの日韓首脳会議が開催された。姜氏が望んでいた、日韓の雪解けがまさに始まろうとしている。

出版 歳時記

▽終活も佳境、たまった本の整理を折りふれてやっているけれども、どうい

けかいつも生き残る本が何冊かある。北陸館刊『原色少年植物図鑑』(著・牧野富太郎)もそのひとつである。初版は昭和二十八年一月一日発行で、私の手元にあるのは昭和三十一年五月三十一日発行の第一六版。奥付には頒布番号三九二八九号、複製複写不許の欄には牧野の印が押ししてある。

私の牧野富太郎

新書版のハードカバーで定価六〇〇円。すでに学生向けに『学生版植物図鑑』があり、植物をくわしく調べたい人のためには『牧野日本植物図鑑』があるの、「これで三段階の植物図鑑がそろった」とご機嫌な著者の序がついている。「大泉の自宅において本書の原図着色をされている先生」と説明のある九一歳翁の口絵写真もついている。

▽牧野富太郎がモデルのNH



☆4年ぶりに懇親会もある全出版人大会を開くことができました。ご参加いただいたみなさまありがとうございます。

☆6月の理事会ならびに評議員会で、昨年度の事業報告と決算報告、公的目的支出計画実施報告が承認されました。理事、監事、評議員のみなさまありがとうございます。

☆昨年度は新型コロナウイルス感

Kの朝ドラ「らんまん」も好調のようで、没後六六年、まさかこんな私たちの出番があるとはご本人思ってもいなかったことだろう。この図鑑は年二、三回のペースで増刷されているから結構売れたようだ。ただタイトには「少年」とあるだけで「少女」がない。今ならいかなるものであろうかとクレームがつくかもしれないね。

ン開発、あの喧嘩からはや半世紀である。むき出しの赤土に木の苗木が頼りなげにならんでいたこの街も、今はすっかり落ち着いた緑に囲まれ、散歩にも四季折々の花が楽しい。我が家の散歩定番コースは酒の肴の買い出しを兼ねたスーパーまでの道。往復三〇〇〇歩から一七〇〇〇歩まで幾とおりかのコースがあり、その時々気分によってどれかを選ぶ。中でも戦時中、製造した戦車の試走につか

染症の影響で、イベントの中止、縮小や、出版クラブビルのホール・会議室の利用率が低下し、残念ながら事業活動収支としては若干の赤字という結果になってしまいました。ただし長期貸付金の返済があり、現金収支ペースではプラスになっています。

☆第8波が収まり、マスクの着用が個人の判断になった3月以降はホール・会議室のご利用が増えています。日によってはご予約をお

ということから「戦車道」と呼ばれる多摩丘陵の尾根筋三キロほどの道がお気に入りである。そこでよく見かけるのが片手に携帯をもち立ち止まってはシャッターを押してのぞきこんでいる姿。携帯の検索機能をつかって花の名前を調べているんですね。パードウオッチングならぬフラワーウオッチング。もつともこの道、息も絶え絶えにすさまじい形相でよろよろとゆくランニング老年ともよくすれちがうけれど。

▽とても使いこなしているとは思えないわが携帯も「植物図鑑」としては大活躍である。詳しい友人によればこのアプリにもピンからキリまであるようで、某大学農学部のアプリが最も精度が高いとか。牧野富太郎「原色少年植物図鑑」、精度はともかくとして、色使い、筆使いなどなかなかいい味を出していて、「携帯植物図鑑」と比べても甲乙つけがたいものがありますね。

(老書生)

断りすることもありません。早めのご予約をお願いします。

☆気象庁の長期予報によれば、この夏は「エルニーニョ」が発生しつつも暑い夏になるそうです。とりわけ8月は酷暑になりそうだから、電気代の値上りが頭の痛いところですが、快適に過ごせるよう心がけます。みなさまご自愛ください。

(横)

70th Anniversary

日本出版クラブは創立70周年を迎えます。
引き続きクラブホール・会議室のご利用を
お願い申し上げます。

出版クラブホール・会議室 PUBLISHERS CLUB HALL

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32

出版クラブビル

TEL 03-5577-1511/FAX 03-5577-1772

<https://shuppan-club-hall.jp/>

神保町駅(東京メトロ半蔵門線、都営新宿線・三田線)

A5 出口より徒歩2分

